イントラネット作業計画管理システム

村山　聡*
久保田雅巳**

要　旨

鉄道事業者の運営において，列車の運行を支える電力，保線，信号通信などの各種設備の保守は，その安全性・快適性を維持する上で極めて重要な業務である。

保守作業の計画は，沿線に分散する設備に応じて，広域に配置された現業部門によって立案し実施される。しかしながら，これらが列車の運行に支障を来すことなくかつ安全に実施されるまでには，関連部門間での非常に緊密で多くの情報連携・判断と協調作業が必要とされている。

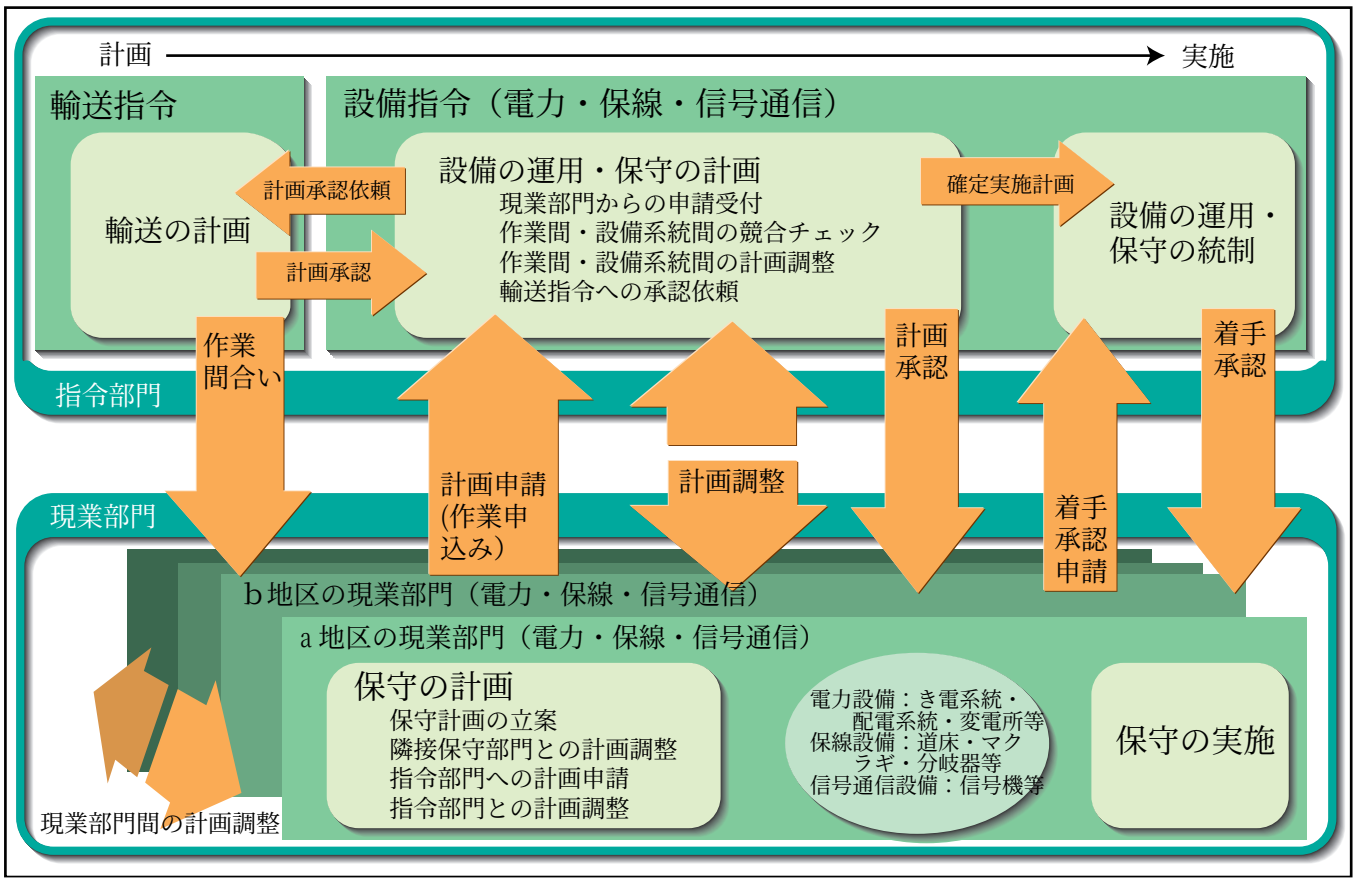
作業計画管理システムは，広域に分散する保守関連部門をパソコンネットワークで接続し，従来のメディアに代わって，部門間の定型・非定型な情報連携・処理を支援する仕組みを提供する。これは業務の効率化と保守の一層の質の向上を目指すものであり，次の特長を持っている。

（1）　モーバイルコンピューティングによる広域イントラネット

インターネットで幅広く利用されている端末接続手段であるダイヤルアップ，リモートアクセス，サーバコンテンツをローカルに複写共有するレプリケーションなどの技術を用いて，モーバイルコンピューティングをベースとした広域イントラネットを構築した。

（2）　グループウェアによる情報の共有と伝達

イントラネットのインフラとして，柔軟性・拡張性に優れたグループウェアを採用することにより，定型的なデータ処理のみでなく，マルチメディアも含む情報の共有と伝達を行ったり，端末のデータベースに蓄積されたデータを自由に加工できるようにした。



鉄道の設備保守業務における部門間情報連携

電力，保線，信号通信などの設備の保守業務は，多くの部門間の情報連携を必要とする。垂直方向には業務の主体となる現業部門とこれを統括管理する指令部門との連携，水平方向には指令内では設備指令-輸送指令間，現業部門でも隣接現業部門間の連携が行われる。